



Mariko Yamamoto

Smile Woman!
インタビュー⑤
この人の仕事のカタチ
どこか探してみえる「仕事」をしているあの人ズームアップ。

伝統文化の書道を世界に発信したい

山本 满理子さん

書道家

「書」の歴史は古くは平安時代にさかのぼる。当時の作品が現在も書の基礎とされている。その歴史に思いをはせながらも、書と日本人との間に距離が開き、現状も否めない。そんな状況を危惧し、書道だけでなく日本文化と正面から向き合おうとしているのが書道家の山本満理子さん。「古きを残すための変化」に力を注ぐ。

●3歳のとき書道と出合う

山本さんと書道の出会いは3歳のとき。「母親が書道教室を開いていたため、物心ついた時には筆を握っていましたね」と話す。小学校を卒業するまでは十段を取得し終えていたが、当時の「書道」は字を習う「習字」に過ぎなかつたと振り返る。その後筆を置いた時期もあったが、進学先の京都で様々な日本文化に触れる中で、新たな気持ちで書を取り組み始めた。「書道」は日本の誇るべき伝統文化であり、後世に残すべきとの想いから教育についても学び、現在は書道教室（岡山市中区倉益）での指導も行う。

●書と音楽融合のイベント

書道の裾野を広げる活動の一環として、昨年から今年にかけて「書」と「音楽」を合わせたイベントを開催した。DJや琴の生演奏をバックに書活動を披露する斬新なパフォーマンス。幅広い世代が集まり、予想以上の反響だったという。「書にリズム感を乗せることで全く新しい見せ方ができる。それによって書道が少しでも楽しく身近なものになれ」と熱く語る。



●型にはまらない生き方貴く

プライベートでは歌舞伎や狂言などの日本文化に触れる時間も大切にしている。そんな傍ら大学で専攻していた司法の勉強にも取り組んでいたという。「今後、法に携わっていくかは未定です。ただ何かの役に立てば…」と型にはまらない生き方を貫く。興味あるものには積極的に触れ、学び、自分のものにしていく姿勢が山本さんの魅力。その人柄に魅せられて集まる人々によって輪ができる、新しい創造が始まるのだろう。「書道は自分の道。一生追い続けると思います」との言葉に書道、日本文化の明るい未来を託したい。